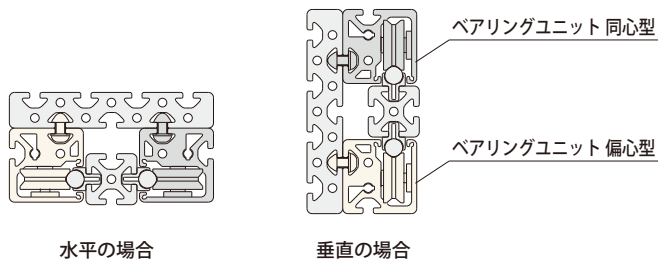


ベアリングユニット5/6、10、14の組付け

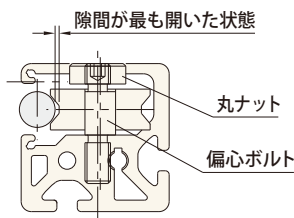
組付けに関する留意点

ベアリングユニット組付けが垂直方向の場合は、通常上側は同心型、下側は偏心型にしてください。
(水平方向の場合は、左右どちらでも構いません。)

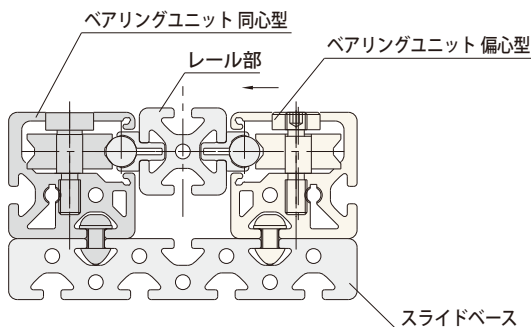


組付け手順

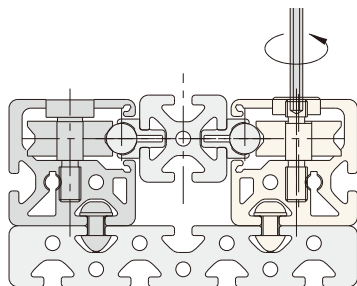
- 1 ベアリングユニット偏心型のローラーの調整をします。偏心ボルトから丸ナットを緩め、偏心ボルトを回らなくなるまでベアリングユニット本体に締め込みます。締め込み後、ローラーの動きを観ながら偏心ボルトが反時計方向へ回転する間で、ローラーとシャフトの隙間を最も開いた状態(ベアリングユニット5/6の場合0.5mm、ベアリングユニット10、14の場合1mm)にし、偏心ボルトの位置がずれない様レンチで固定しながらナットをピン・キー(ベアリングユニット5/6、10の場合TE-PK5/6、ベアリングユニット14の場合TE-PK14)で仮締めします。



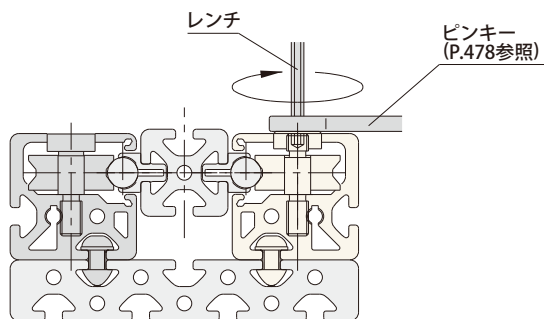
- 2 1の状態にしたベアリングユニット偏心型は、レール部を抱き合わせ、スライドベースに接続します。接続の際はベアリングユニット同心型を基準にして、極力スライドベースの内側へ寄せてください。



- 3 接続後、丸ナットを緩め、偏心ボルトを反時計方向へ回し、ローラーがシャフトを軽く押す状態にします。そして偏心ボルトの位置がずれない様にレンチで固定しながら再び丸ナットを仮締めします。



- 4 スライドベース部の動きを観ます。スライドベース部の動きが重い場合は時計方向へ、スライドベース部とレール部にガタつきがある場合は反時計方向へ偏心ボルトを微量調整してください。調整後、偏心ボルトの位置がずれない様レンチで固定しながら丸ナットをピン・キーで増し締め(ベアリングユニット5/6の場合3N・m程度、ベアリングユニット10の場合6N・m程度、ベアリングユニット14の場合20N・m程度)してください。



※図はベアリングユニット14の場合です。